【書式A】　施設名 文化財活用センター　処理番号 1610H

中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（6）文化財の積極的な活用による文化財の継承につなげる新たな取組 ①文化財に親しむためのコンテンツの開発とモデル事業の推進

【年度計画】・Ⅰ-1-(6)-①-1)、2)、3)、4)

担当部課	文化財活用センター企画担当	事業責任者	企画担当課長　藤田千織、室長　髙橋美奈子

【実績・成果】

1)ア　各施設、企業等と連携して高精細複製品を製作した。VR、8Kなど先端技術を使ったコンテンツを新規開発するだけでなく、既存コンテンツの幅広い活用・普及事業および、多言語字幕・手話CGなど社会包摂的サービスを追加する事業などにも取り組んだ。

イ　東京国立博物館において体験型展示スペース「デジタル法隆寺宝物館」（法隆寺宝物館中2階）、「日本美術のとびら」（本館特別3室）を継続して開室した。

2）機構内施設及び地域のミュージアム等と連携し、高精細複製品やデジタルコンテンツを活用した体験型展示を全国で展開した。

3)「ぶんかつアウトリーチプログラム」として、小中高等学校等の外部機関へ高精細複製品の貸与を行ったほか、全国の小中高等学校、博物館に26件の教育プログラムを提供した。当プログラムには特別支援学級及び院内学級の生徒を含む2,222名の児童生徒・来館者が参加した（教員研修等を実施する各自治体の教育センターと連携して行った鑑賞教育をテーマとした教員研修参加者109名を含む）。また、奈良文化財研究所と協力して開発した「なぶんけん×ぶんかつアウトリーチプログラム」を提供し、41機関で実施した。

4）オンラインコンテンツ「うるし体験 for WEB」を作成した。なお公開は7年度予定。また、自然光の環境に屏風を置き昔の暮らしの中での見え方を示すタイムラプス動画を公開した。

【補足事項】

1)ア

・キヤノン株式会社、TOPPAN 株式会社、シャープ株式会社、NHK との共同プロジェクトを継続した。

・キヤノン株式会社との共同研究で、国宝「動植綵絵」（皇居三の丸尚蔵館収蔵）、「平家物語　一の谷・屋島合戦図屏風」（大英博物館所蔵）の高精細複製品の製作を継続、国宝「松林図屏風」（東京国立博物館所蔵）の高精細複製品 1 件の製作を開始したほか、展示やハンズオンなどでの活用目的で、東京国立博物館所蔵の国宝「袈裟襷文銅鐸（外縁付鈕２式銅鐸）」（金属製）の複製の製作を継続、重要文化財「三角縁五神四獣鏡」、「自在蛇置物」（1 個）の複製の製作を開始した。ほかにも奈良国立博物館所蔵「泣不動縁起」、「矢田地蔵縁起」、九州国立博物館所蔵「斎宮女御集断簡 小島切『うら水の』」など合計 14 件の複製とデジタルコンテンツ及びオンライン用コンテンツ 4 件の製作・開発を開始した。

・シャープ株式会社との共同プロジェクトにより、「江戸きもの LOOKBOOK」の実証公開を東京国立博物館特別 3 室にて開催した（6 年 7 月 23 日～9 月 23 日）。延べ 9,240 人（56 日間、1 日平均約 147 人）が来場し、アンケートでは満足度 93.9%（日本語）、90%（英語）の評価を得た。

・東京国立博物館、NHK との共同研究で制作されたコンテンツ「洛中洛外　京めぐり」を NHK 名古屋放送センターで公開（10 月）。1360 人が体験し、満足度 95.41%（日本語）、100%（英語）の評価を得た。

・国立科学博物館との連携により、「自在蛇置物」複製を活用した貸出し用展示キットの開発に継続して取り組んだ。その一環として東京国立博物館の特集「博物館に初もうで―ヘビ～なパワ～を巳（み）たいの蛇（じゃ）！― 」において「自在蛇置物」の複製が動く機構部分のみを展示キット全体の完成に先駆けて公開した（7 年 1 月 2 日～26 日）。

・九州国立博物館と共同で、8K 映像とハンズオンコントローラーで九博所蔵の名碗を鑑賞するデジタルコンテンツを新規制作した（公開は 7 年度）。

イ

・体験型展示「デジタル法隆寺宝物館」において、①「聖徳太子絵伝」に関する展示（4 月 1 日～7 月 28 日および 7 年 1 月 28 日～3 月 31 日）、②「法隆寺金堂壁画」のコンテンツ（7 月 30 日(火)～7 年 1 月 26 日）及び関連複製・復元模造・展示映像を公開した。来館者アンケートでは、①日本語 89.4%、英語 100%、②日本語 88.6%、英語 100%から「とてもよい/よい」の評価を得た。

・高精細複製品やデジタルコンテンツによる日本美術に親しむための常設体験展示室「日本美術のとびら」において、本館 4 室のリニューアルにあわせて体験型コンテンツの追加を行った（4 月 1 日～6 月 30 日）。

2)・佐賀県立美術館と共同し、同館の特別展内で「洛中洛外図屏風(舟木本)」の「８Ｋ文化財」（3DCG モデル）を実証公開（12 月 6 日～7 年 1 月 29 日）し、44 日間で 13,001 人が来場。アンケートでは、満足度 89.7%(日本語)、100%（英語）の評価を得た。

・岡山県立博物館と共同し、同館の特別展内で「8K で文化財 ふれる・まわせる名茶碗」（3 年度制作）を公開、体験者アンケートを行った（公開期間：7 年 1 月 31 日～3 月 16 日）。88.8%から「とてもよい/よい」の評価を得た。

・日本空港ビルディング・株式会社ビッグウイングとの共同により、羽田空港第 2 ターミナル国際線出発ロビーで高精細複製品を展示する「日本美術のつばさ×HANEDA」を開始、第 3 ターミナル江戸舞台にも高精細複製品を展示した。(6 月 27 日～7 年 3 月 31 日)同様に「日本美術のつばさ×東京国際クルーズターミナル」として東京国際クルーズターミナルでも高精細複製品の展示を開始した。(7 年 3 月 7 日～31 日)

【評価指標】項目	6年度実績	目標値	評定		2	3	4	5
コンテンツ開発・展開数	30件	－	－	経年変化	－	24	36	27
うちコンテンツ開発件数	18件	－	－		－	18	29	18

【年度計画に対する総合評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】 企業と連携した高精細複製製作や、先端技術を使った体験コンテンツの開発などを意欲的に行い、地域の美術館・博物館等で開催される特別展などで広く公開した。また、既存コンテンツをより多くの方々に体験していただけるよう、デジタル技術を用いた多言語（中国語・韓国語）音声や字幕、手話CGサービスの追加も行った。アンケートによる評価等も非常に好調であることから、目標を大きく上回る成果を上げたと判断しA評価とした。
【中期計画記載事項】 高度な技術で製作された複製や、VR、AR、8K映像などの先端技術を使った企画コンテンツ事業を積極的に推し進めることで、文化財の新しい活用方法を探り、これまで文化財に触れる機会のなかった人々にも 、学ぶ喜びや、楽しい時間を創出する。	
【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 文化財の複製や、VR、AR、8K映像など先端技術を使ったコンテンツの開発を企業等と連携して行った。過去5年間に開発・製作した既存コンテンツや複製の貸出と活用に加え、より広い範囲で多くの方が文化財に親しむ機会を創出するため、多言語及び手話CGサービス等の追加作業などを行った。また、羽田空港など外国人を含む利用者の多い公共の場や地方の美術館などにおいて高精細複製品やデジタルコンテンツを公開することで、日本の文化財の魅力を国内外に広く発信した。これらの事業により、中期計画を順調に遂行できており、7年度以降も、企業、地域の博物館、学校などと連携協力し、各地域での文化財の活用を推進したい。

【書式A】　施設名 文化財活用センター　処理番号 1620H

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（６）文化財の積極的な活用による文化財の継承につなげる新たな取組 ②国立博物館の収蔵品の貸与の促進

【年度計画】
・Ⅰ-1-(6)-②-1)、2)

担当部課	文化財活用センター貸与促進担当	事業責任者	課長　沖松健次郎

【実績・成果】
1)　・文化財活用センターは東京・京都・奈良・九州の各国立博物館と共同で、日本及びアジアの歴史・文化への理解を進めるとともに、地方創生、観光振興並びに次世代への文化財継承に寄与することを目指して国立博物館収蔵品貸与促進事業を実施し、国内の博物館等6機関に86件の文化財を貸与した。このうち、佐野市立吉澤記念美術館については、本事業を通じ初めて国立博物館の収蔵品を貸し出すことができた。また鹿児島市立美術館では、過去5年間の特別展での最多来場者数、アンケートの高い満足度、郷土の美術への興味関心の裾野を広げる役割を果たすなど、本事業が各展覧会に好影響を与えることができた。

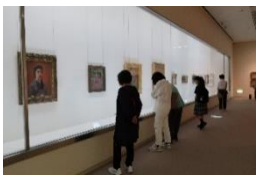
大規模貸与

鹿児島市立美術館「鹿児島市立美術館開館70周年記念 没後100年 黒田清輝とその時代」貸与件数：43件

小規模貸与

岐阜県美術館「「清流の国ぎふ」文化祭2024　PARALLEL MODE：山本芳翠」貸与件数：6件
福井市立郷土歴史博物館「鉄の名工　越前明珍」貸与件数：6件
豊橋市美術博物館「銅鐸の国－伊奈銅鐸出土100年－」貸与件数：14件
佐野市立吉澤記念美術館「佐野市制20周年記念特別企画展　丸山瓦全と佐野のお宝　保護作戦！―エラスムス立像を見つけ、天明鋳物をまもった―」貸与件数：9件
茨城県立歴史館「開館50周年記念 春の特別展　雪村―常陸に生まれし遊歴の画僧―」　貸与件数：8件

・6年度に募集を行った令和7年度事業から、東京・京都・奈良・九州の国立博物館に加え、東京・奈良の文化財研究所の所蔵作品も本事業の対象とし貸出作品の拡大を行った。加えて、早速それらを対象とする申請があり、令和7年度事業の採択館への貸出が決定した。


鹿児島市立美術館「鹿児島市立美術館開館 70 周年記念 没後 100 年 黒田清輝とその時代」会場風景

2)　文化財活用センターの保存修理費により修理完了予定の「J-8361　細形銅矛」「J-34804　中広形銅戈」など5件を8年度国立文化財機構所蔵品貸与促進事業の申請要項にある、「貸与可能作品　リスト」へ追加掲載した。また、新たにアイヌ民族分野の「貸与可能作品リスト」を追加した。

【補足事項】
文化財活用センターは、開催館までの往復作品輸送費・保険料・出張費の他、本事業の周知を含むことを条件とした広報費を支出した。支出先及び広報媒体は以下の通り。
鹿児島市立美術館（交通広告、デジタルサイネージ、アーケード吊り看板、屋外看板）、岐阜県美術館（SNS広告）、佐野市立吉澤記念美術館（地元新聞への広告掲載）、茨城県立歴史館（交通広告）
また、貸与にあたり、東京国立博物館収蔵品 3 件（岐阜県美術館、福井市立郷土歴史博物館貸与分）の応急修理を行った。

【評価指標】項目	6年度実績	目標値	評定		2	3	4	5
事業実施件数	6件	－	－	経年変化	5	5	6	7
貸与件数	86件	－	－		116	89	113	74
うち国内の貸与件数	86件	－	－		116	89	113	74
うち国外の貸与件数	0件	－	－		0	0	0	0

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
本事業は8年目を迎えるが、その中でも佐野市立吉澤記念館のように、初めて国立博物館から貸与を受ける館もあり、国立博物館の所蔵品を全国の博物館・美術館等での展示で活用するという本事業の目的を踏まえた展開をすることができた。また、鹿児島市立美術館に代表されるように、郷土の美術への興味関心の裾野を広げるという点においても、実施館からその効果を実感できるような声を頂くことができ、全体として本事業の趣旨にかなった事業展開をすることができた。

【中期計画記載事項】
国立博物館が収蔵する文化財を全国の博物館・美術館等での展示で活用するため、貸与促進事業を実施し、地方創生・観光振興にも寄与する。実施にあたっては、作品の輸送費や広報費等を負担するとともに、文化財の魅力と価値を広く伝える活動に取り組む。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
初めて国立博物館から借用する機関へ貸与を行ったことや、今年度からの新たな取組として、事業の対象範囲を東京・奈良の文化財研究所の所蔵作品にまで広げ、実際に7年度事業として貸し出しが決定するなど、中期計画4年度として、順調に実施ができた。また7年度実施分には「貸与可能作品リスト」にアイヌ民族分野を追加するなど、事業内容の充実にも取り組んだ。今後も実施体制を随時見直し、より各地域の博物館・美術館が利用しやすい事業になるよう取り組んでいく。

【書式A】　施設名 文化財活用センター　処理番号 1630H

中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（6）文化財の積極的な活用による文化財の継承につなげる新たな取組 ③文化財情報のデジタル資源化の推進と国内外への情報発信

【年度計画】
・Ⅰ-1-(6)-③-1)、2)、3)、4)、5)

担当部課	文化財活用センターデジタル資源担当 文化財活用センター企画担当	事業責任者	課長　村田良二 企画担当課長　藤田千織

【実績・成果】
1）各施設と連携して、所蔵品データベース「ColBase 国立文化財機構所蔵品統合検索システム」について、掲載画像を追加した（追加画像数4,006枚）。システムOSの更新を実施し、サービス運用の安定化向上を図った。また、画像ダウンロード時のアンケート結果を分析し、今後の活用展開を検討する基礎情報を得ることができた。

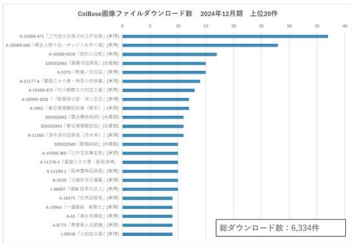
2）各施設と連携して、4館及び奈良文化財研究所所蔵の国宝・重要文化財について、4言語（日、英、中、韓）の説明を付したデジタル高精細画像を公開する「e国宝　国立文化財機構所蔵 国宝・重要文化財」のデータを更新（追加作品4件）、解説文の見直しを継続して行った（解説文見直し311件）。また、システムOSの更新を実施し、サービス運用の安定化向上を図った。

3）皇居三の丸尚蔵館の収蔵品等について「ColBase」へのデータ追加、「e国宝」への掲載について諸条件を検討した。
4）各施設の協力のもと、国の分野横断統合ポータル「ジャパンサーチ」へのデータ提供を継続した。

5）文化財活用センターのウェブサイト、SNS等を活用し、文化財活用センターの活動の周知及び文化財全般にかかる情報の発信を行った。

【補足事項】
1）「ColBase」の画像利用傾向を統計的に把握することができるようになった結果、特定の作品に利用が集中するのではなく、幅広く多くの作品撮影画像が利用されている傾向にあることがわかってきた。

2）文化財活用センターのブログでは、「ColBaseを使いこなそう！」と題した全3回にわたる記事を公開し、「ColBase」での検索方法や画面の見方を紹介した。「ColBase」ウェブサイトでは十分に案内ができていない部分について補足するような形で、入門編・初級編・上級編と読者層を分けて記事を作成した。



【評価指標】	6年度実績	目標値	評定	経年変化	2	3	4	5
e国宝のアクセス件数 ※1	159,010件	516,808件	D		215,337 ※2	650,197	818,665	193,341
ColBaseのアクセス件数 ※3	172,982件	61,026件	A		140,553	142,970	250,005	106,174

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	「e 国宝」・「ColBase」の双方で、5 年度と同程度のアクセス件数となった。「ColBase」において、画像ダウンロード統計を取得できるようになった結果、アクセス数だけでは推し量れない利用者像を把握することができるようになった。あわせて、システムの OS 更新を実施し、安定的な運用を維持できる形へと整備できたため、B 評価とした。

【中期計画記載事項】
ColBase（国立文化財機構所蔵品統合検索システム）、 e 国宝（文化財高精細画像公開システム）の内容の充実を図る。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	「e 国宝」・「ColBase」のシステム OS 更新とデータの追加登録を進め、サービスの安定化と充実を図ることができ、共に内容充実面での順調な成長を遂げた。加えて、「ColBase」では、画像ダウンロード統計の蓄積から、調査・研究目的に留まらず幅広く利用されていることが分かりつつある。ブログ記事でも、「ColBase」の検索機能など利用案内に着目したテーマを設定し、より多くの利用普及に努めることができており、中期計画を順調に遂行できた。

※1:e 国宝のアクセス件数については、2 年度 11 月 1 日のリニューアルと 5 年度 4 月 1 日に件数集計方法が変更された。
※2：2 年 11 月 1 日～3 年 3 月 31 日のアクセス件数。
※3：ColBase のアクセス件数については、5 年度 4 月 1 日にウェブサイト解析システムのバージョン変更による計測方法変更があった。

【書式A】　施設名 文化財活用センター　処理番号 1640H

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（６）文化財の積極的な活用による文化財の継承につなげる新たな取組 ④文化財保存の質的向上に資するための協力、支援、人材育成

【年度計画】
・Ⅰ-1-(6)-④-1)、2)、3)、4)

担当部課	文化財活用センター　保存担当	事業責任者	課長　吉田直人

【実績・成果】
(1)
・国内の博物館・美術館等からの保存環境管理や改善に関する相談に対して、助言を行った（75件)。そのうち、具体的な原因究明や調査研究的な対応が必要と判断した案件に対して、現地調査を行った(10件)。
・新築や増改築を予定している文化財保存施設について、関係者と直接協議を行い、保存のための良好な温湿度や空気環境維持の観点から、設計や設備について、また、竣工後の環境モニタリング方法などに関して助言を行った(6件)
(2)
・6年度「美術館・博物館等保存担当学芸員研修（基礎コース)」を7月29日～8月2日、1月20日～24日の2回、同一内容でそれぞれ開催し、基本的な保存環境管理に関する講義や実習を行った。
・資料保存専従学芸員等を対象とした「保存環境調査・管理に関する講習会」を11月5日と3月3日、それぞれ東京文化財研究所との共催により実施した。
・各地の博物館協議会に、共催での保存管理に関する研修会の開催を呼びかけ、6年度は栃木県と埼玉県でそれぞれ実施した。
・外部機関等からの依頼による保存環境に関する講義や講演を行った（6件）
(3)
・文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による国宝・重要文化財の公開を予定している55施設を対象として、保存環境調査を行った。うち、49施設については、調査完了後に環境調査報告書を提出し、5施設に関しては公開に問題ない環境であることの簡易的な確認を行った。1件は継続中である。
・公開承認施設の申請を予定している3施設に対して保存環境調査を行い、所見を提出した。
(4)
・7年度貸与促進事業に応募した11施設について、文化財管理、保存体制についての評価を行った。また、6年度、7年度同事業の内定館の環境調査を各1施設に対して行った。
○
・文化財保存に関する基礎的な調査研究を行い、寺社等における環境管理に関する学会発表と論文公表を各1件行った。

【補足事項】
(2)
・美術館・博物館等保存担当学芸員研修（基礎コース）受講者数：7/29～8/2 開催 24 名、1/20～1/24 開催 26 名
・第 8 回「保存環境調査・管理に関する講習会-北川式検知管の開発状況と空気環境管理の課題-」（会場参加 3 名、リモート参加 18 名)、第 9 回「保存環境調査・管理に関する講習会-博物館等の空気環境における“のぞましい値”の考え方について-」（会場参加 3 名、リモート参加 20 名)。
・7/10「令和 6 年度博物館文化財セミナー」（主催：栃木県博物館協会、栃木県立博物館、文化財活用センター）参加者 45 名、2/14「後期研修会」（主催：埼玉県博物館連絡協議会、文化財活用センター）参加者 21 名
(3)これらの調査は、文化庁審議官発の協力依頼（4 年 4 月 10 日付 6 文庁第 360 号）により、文化財活用センターが担い、文化財保護法 53 条に基づく公開や、公開承認施設申請を予定する施設からの依頼を受け、実施したものである。
○
間渕　他「愛知県蒲郡市無量寺の宝物殿における環境整備の取り組み」文化財保存修復学会第 46 回大会
間渕　他「HERIe を利用した山・鉾・屋台を保管する
倉庫の温湿度環境評価について」保存科学第 64 号

【評価指標】項目	6年度実績	目標値	評定	経年変化	2	3	4	5
文化財保存等の相談・助言・支援の取組状況	161件	－	－		179	253	191	163

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
保存環境に関する相談件数は例年並みであるが、文化財保護法53条に基づく公開に係る調査件数が大きく増大した。それに対して必要に応じた現地調査や改善協力を行い、安心して公開できる環境の実現に寄与した。また、従来の研修会、講習会に加えて、地域の博物館協議会などとの共催による研修会を初めて実施した。「美術館・博物館等保存担当学芸員研修（基礎コース)」の参加希望者が多く（6年度 167名)、要望に応えきれない現状の中で、保存環境管理に関する学習機会を増やすことができたことは当センターにとっても望ましいことである。次年度以降も、教育普及の場を拡大していきたい。

【中期計画記載事項】
「活用との両立」の観点より、文化財の展示・収蔵環境向上に資するための、相談や協議対応、改善のための調査協力や技術支援、研修会や講習会を通じた環境管理に携わる人材育成を行う。また、環境管理に係る調査研究を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 全国の文化財保存施設の保存環境向上に資するための相談対応や協力、研修会、講習会による環境管理の周知、基礎研究の推進と公表、いずれの項目も中期計画に沿った実績を得ていることから、順調に推移しているものと評価する。自主的な環境管理や評価、モニタリングを行う文化財施設が増えたことには、我々の取組の寄与も大きいものと自負しているが、主要な燻蒸材の生産中止が控えていることなど、今後の課題も多い。常に最新の動向を注視しながら、今後も文化財保存に貢献する事業と、その質的向上に努めたい。